

進路指導のたより

令和6年度 2月号

栃木県立富屋特別支援学校 進路指導部

◇第3学期産業現場等における実習および校内実習について

【中学部 校内実習】

3学期の5日間の校内実習では、4つの作業班で普段の作業内容を中心に取り組みました。これまでの実習の経験をもとに、それぞれ目標をもって実習に臨みました。決められた時間集中することや手順を覚えて自分から取り組むなどの面が向上しました。普段の作業学習と違った緊張感をもって活動することができました。



【高等部 校内実習】

1年生は、校内実習で製品パッキング、リサイクル作業を行いました。3回目の校内実習ということで、作業内容や実習の流れを理解して、落ち着いて実習に取り組むことができていました。実習中に、少しずつ挨拶や返事の声が大きくなり、作業を丁寧に行うことができました。食堂清掃では、手順を覚えて、協力して食堂をきれいにすることができました。一人一人が目標にしていたことを意識して取り組むことができたのではないかと思います。そして、今回できたことともっとできるようになりたいことを、今後の学校生活の中で、取り組んでいってほしいと思います。



【産業現場等における実習】

2年生は2回目の産業現場等における実習を行いました。2学期と同じ事業所で前回の課題改善のために取り組む生徒や2学期とは違う事業所で実習に取り組む生徒もいました。緊張や不安に思うことがありましたが、目標を達成できるように頑張りました。

3年生は、卒業後に就職する企業や利用する福祉事業所で実習を行いました。卒業後に向けて意欲的に取り組むことができました。



◇中学部 職場体験について

2月3日（月）に中学部3年生が、学校の近くにある果物のハウス栽培をしている「こまき園」で職場体験を実施しました。剪定された枝を拾い集める作業を体験しました。実際に作業をすることで、一つ一つの作業の意味を知り、真剣に指示を聞いて取り組む様子が見られました。



◇進路懇談会

12月12日(木)、高等部2年1、2組、3年1組生徒を対象に、「クボタワークス株式会社」に就職した昨年度卒業生のKさんを迎え、進路懇談会を開催しました。生徒たちは仕事のやりがいや大変さ、給料の使い道、私生活の話題などについて積極的に質問をし、Kさんにも丁寧に回答をしていただきました。在学中にお世話になった先輩が社会人として立派に働いている姿に、生徒たちも良い刺激を受けたようでした。特に3年生は、まもなく社会に出るということもあり、メモを取りながら真剣に話を聞く姿が見られ、有意義な会となりました。



◇実習について

産業現場等における実習を行い、企業や福祉事業所の実習先から生活面、作業面について一人一人に評価票をいただいています。その評価票の内容を実習の事後学習で活用し、進路指導に生かしています。今回は、反省からコメントの一部を掲載します。(原文そのまま)



生活介護	困っていることをきちんと相手に伝える力を高められるとよい。 食事の時に食器を持つこと。 着替えの時に自分で行うこと。 自分だけで何かできることを増やしてほしい。
就労継続支援 B 型	忘れ物や衛生面を整えてほしい。 周囲の状況等に合わせた安全に行うこと。 作業はよく理解し行うことができるが、集中できる時間が短い。 身だしなみに気をつけてほしい。
就労継続支援 A 型	出退勤時のあいさつをもう少し大きな声でできるとよい。 一人で通勤できるようになると望ましい。指示を聞く際の態度(手を止めて聞く)。 仕事をするために必要な「あいさつ」「返事」ができないことが多く、その点が大きな課題となる。 敬語で常に話しましょう。慣れによる安全意識が低下します。ルールや決まりを行動する前に思い出しましょう。 時折、焦りが出てしまうことがあるので、落ち着きの持続、物事を行った後の確認、見直しが身につくとよい。 質問等がもう少し大きな声でできるとよい。 他者に聞くことができれば、聞くことができなければ何らかのアクションを起こすことができればと思います。
企業	コミュニケーションについては、慎重な姿が目立ちましたが、慣れるにつれ、笑顔や笑い声も聞こえてくるようになりました。 積極性がほしいです。 疑問に思ったことを質問できるように。



評価票のコメントを見ていると、挨拶、返事、質問ができること、基本的な生活習慣の確立など、日常の学校生活や家庭生活で取り組むことができそうなことをしっかりと当たり前に行えることが重要になってきます。「凡事徹底」という言葉がありますが、生徒一人一人の可能性を広げるために、学校と家庭で協力して取り組んでいくことができればと思います。

